

令和6年度

公共事業評価に係る意見について

評価対象事業

宇佐町・片野新町地区浸水対策事業

北九州市公共事業評価に関する検討会議

令和6年12月24日

## 1 対象事業

事業名	事業箇所	事業費	事業期間
宇佐町・片野新町地区 浸水対策事業	小倉北区三萩野 三丁目ほか	9,300百万円	令和5～ 12年度

北九州市では、これまで10年に1度の降雨（53mm/h）に対して、浸水のない雨に強いまちをつくるため、雨水管や排水ポンプなどの整備に取り組んできた。

しかしながら、近年、気候変動の影響により、局地的な豪雨や想定を上回る降雨の発生頻度が増加傾向にあり、整備基準を超える降雨によって浸水被害が発生している。

宇佐町・片野新町地区では、平成30年7月の豪雨で、市内で過去最大規模の降雨（70mm/h）を記録し、床上浸水110戸、床下浸水156戸の被害が発生した。

局地的な豪雨による浸水被害の発生リスクが増大する中、将来にわたって、市民の生命、財産を守り、暮らしの安全・安心を確保するため、当該地区において、雨水貯留管や雨水増補管の整備による浸水対策を行うものである。

## 2 事業の進め方についての意見

「宇佐町・片野新町地区浸水対策事業」を本計画どおり進めていくことについて、すべての構成員が「異論はない」との意見であった。

## 3 構成員の主な意見

事業の推進にあたっては、下記の意見があった。

### （1）浸水範囲の縮小について

シミュレーション上は事業完了後も若干の道路冠水箇所が残ることを踏まえ、関係部局と調整のうえ、浸水範囲の縮小に努めていただきたい。

### （2）住民とのリスクコミュニケーションについて

自然災害は完全には防げないことを踏まえ、豪雨災害のリスクや避難について住民に十分な説明、啓発を行っていただきたい。

### （3）公園利用者等とのコミュニケーションについて

利用者が多い三萩野公園の一部に工事ヤードが設置されることから、公園の利用者や指定管理者と十分なコミュニケーションをとっていただきたい。

### （4）埋設物等の事前調査について

他の事業についても事前の調査をしっかりと行うしくみ（工夫）を検討していただきたい。

#### 4 北九州市公共事業評価に関する検討会議 構成員

(五十音順、敬称略)

氏名	役職等
きど まさえ 城戸 将江	公立大学法人北九州市立大学 国際環境工学部 教授
さいとう ゆりえ 齊藤 由里恵	学校法人梅村学園中京大学 経済学部 准教授
さとう たろう 佐藤 太郎	株式会社日本政策投資銀行 九州支店 企画調査課長
たなか やすこ 田中 康子	株式会社大屋設計 執行役員 所長
はらだ みどり 原田 緑	北九州商工会議所 女性会 副会長
みなみ ひろし 南 博	公立大学法人北九州市立大学 地域戦略研究所 教授
よしたけ てつのぶ 吉武 哲信	国立大学法人九州工業大学大学院 工学研究院 教授